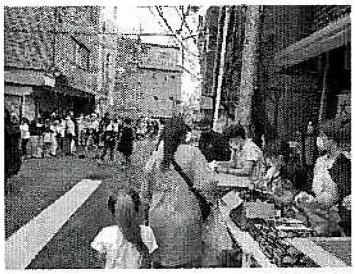
地域子ども・子育て活動支援助成事業　実施報告書（別紙２）

団体名	桜本こども食堂運営委員会

取組の名称	桜本こども食堂
実施場所	桜本保育園（川崎区桜本 1-9-6）
対象地域	主に川崎区内
対象地域の特色・課題	川崎区は川崎市内でもひとり親世帯や外国人世帯が多い地域となっており、困難な状況にある家庭が多い。一方で、地域の人と人のつながりもまだ残っており、地域力の強いことも特色である。
取組の趣旨・目的	近年、地域のこどもの居場所づくりとして、こども食堂が脚光をあびており、現在、全国で 6000 以上があるといわれています。 こども食堂は当初は、子どもの貧困対策の手法として考えられていますが、困難な状況にある子どもと出会い、参加を促すことは困難なことから、現在は子どもを中心に大人や高齢者も含めて、地域の住民が気軽に集え、食卓を囲むことができる地域の共生食堂としての役割が高まっています。 桜本こども食堂は 2016 年度より社会福祉法人青丘社が運営してきましたが、地域の取り組みとして運営していこうとの機運が高まり、2019 年度より地域の住民と共に団体をたちあげ、運営しています。 地域の共生食堂として、毎回、こども、大人をあわせて 100 人を超える利用者があり、多世代交流の場となっています。また、仕事の忙しい、ひとり親家庭や外国籍世帯の子どもたちの利用も多いほか、保護者の利用も多く、食事をしながら、様々な悩み相談をしていたり、子ども、保護者同士の支え合いの場ともなっています。

	こうした地域の共生食堂の運営を通じて、誰もが安心して暮らすことのできる地域づくりに寄与することを目的とします。
実施内容・実施スケジュール	コロナウィルスの影響で今年度も従来のような会食形式でのこども食堂は出来ませんでしたが、かわりに、お弁当形式でのこども食堂を計10回実施しました。コロナウィルスのことで様々な負担が増え、不安やストレスを抱えている保護者からはお弁当を受け取りながら、話を聞いてもらえてよかった、家事の負担が減り、とっても助かった、子どもたちはお弁当を家族でゆったりと食べられて楽しかった、おいしかったとの声が多くありました。しかし、8月の緊急事態宣言、1月以降の蔓延防止等重点措置の最中は影響で休止となってしまいました。 一方で、フードパントリー（食糧支援）は毎月、実施できました。コロナウィルスの影響で生活が大変な人が増える中で、とっても助かったとの声がたくさんありました。また、食糧を受け取りながら、様々な相談をしていく方が多くいました。  【フードパントリーの様子】 【お弁当食堂の様子】

参加者の年代	乳幼児～高齢者 （主には未就学児、小学生、保護者）	定員 （1回あたり）	約130名こども食堂
実施頻度	こども食堂　3週間に1回 フードパントリー　月1回	活動日数 （年間）	22日（お弁当食堂10日・フードパントリー　12日）
スタッフ体制	調理チーム　　地域住民を中心に5名程度 配布チーム　　地域住民を中心に10名程度		

連携する団体・ 連携の手法	パルシステム神奈川ゆめコープなど　食材提供 社会福祉法人　青丘社　運営補助
取組実施により 見込まれた効果	こども食堂（お弁当）を通じて、こどもと一緒に楽しく食事ができ、家庭の家事負担の軽減につながったとの声が多くありました。また、フードパントリーでは、生活が大変ななか、お米などがとても助かった。こどもと取りに行くことが楽しみとなったなどの声が多くありました。 住民参加型の活動であるため、地域包括ケア、街づくりの推進にもつながりました。